

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2775004837		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム東大阪加納(太陽)		
所在地	大阪府東大阪市加納1-4-35		
自己評価作成日	平成23年3月13日	評価結果市町村受理日	平成23年7月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2775004837&amp;SCD=320">http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2775004837&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成23年4月20日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

まず、職員の元気のよさが特徴です。行事やイベントごとに対して積極的であり、ホームの職員一丸となつての発言・行動が多く見られています。特にイベント事に関しては、家族様の参加も多く観られています。また、毎日の食事に対する意識が高く、味覚・盛り付け・量にこだわりを持ち皆様に満足いただける食事を提供することで、体調管理はもちろん、食べることへの喜びや楽しみを感じていただけるよう努力しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

明るくゆったりと清潔感のあるゆったりとした造りで、その中で利用者が思い思いに穏やかに生活できるよう支援しています。重度化が進む中でも自己決定する事や出来る事をして頂くように心がけ自立支援に力を入れています。日々の細かな様子を個別ノートに記載し家族にも公開し、ホームでの生活を理解して頂くと共に信頼関係が構築されるよう取り組んでいます。職員は介護について振り返る機会を多く持ち、会議等で問題点や疑問点を話し合っ改善に繋げる等、ケア向上に活かせるよう取り組んでいます。職員は利用者や家族とそれぞれとのコミュニケーションも良好で、意向や希望の把握が充分出来ており、それらを介護計画に反映されています。又、利用者や来訪者に対して丁寧な対応を心がけ、明るく前向きに支援しているホームです。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を掲げ、全職員が周知・認識し実践に向け日々努力している。	理念の他に前向きなケアの提供が出来るような行動指針「明元素」を表示し、目に付くところに掲示する事で常に心に持ってケアをするように職員に周知徹底されている。また、明るいホームになるような取組みが実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事や医療機関関係では地域のつながりが持てているが、日常的な地域交流は現在図られておらず。	自治会に入り地域の行事参加や小学校の音楽会に参加している。ボランティアの来訪もあり地域の一員として交流を図っている。介護関係の学校から実習の受入れ要請もあり地域資源として認知されてきている。	地域の方にホームの理解と交流を深めるためにも、具体的なイベント等を計画して、お誘いされてははいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談はもちろん、認知症やグループホーム自体への認識を深めていただけるよう問い合わせ、相談にはその都度対応し、見学も積極的に受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度、実施しておりホーム内の報告を主としている。また、会議出席者からの質疑応答では、家族様の負担や不安を理解し、サポートしていけるよう話し合いを行っている。	会議は2ヶ月に1回開催され、家族や民生委員、地域包括支援センター、近くの他事業所職員の参加があり、ホームからの報告の他、家族からの相談等にも丁寧に答えている。参加者からは助言をもらいサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明点やホーム内の情報伝達は出来る限り電話や窓口で直接行い指導を受けている。また、地域会議等の参加にて連携を計っている。	ホームの情報伝達は区の窓口に出向き行っている。また実情に応じた情報をファックス等で受けている。定期的で開催されている市主催の地域の事業所の会議に参加する等連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、常にスタッフ同士で拘束に値しないか話し合い、利用者様の中核・周辺症状の変化に留意しながら、ユニット間を自由に行き来できるように取り組んでいる。	1Fユニットの出入り口は開放、2Fユニットは構造上施錠しているが、外出の意向があれば職員が付添って散歩や買物に行っている。職員は研修を受け、ユニットカンファレンスやケアカンファレンスでリスクマネジメントについて話し合いを重ね振返る機会を作っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護スタッフ参加にて、会社の他ホームと合同で研修会の実施をしている。		

愛の家グループホーム東大阪加納(太陽)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶべき重要な事柄であるが、現状では全職員対象には実施できていない。理解が必要なことであるので、今後取り組みを行う必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	主に運営推進会議にて要望や意見を伺っているが、日常においても家族様とのコミュニケーションを密にとり、要望を伺いやすい環境作りをしている。	利用者個別の表情なども詳細に記載されている申し送りノートは、一冊ごと家族に渡し利用者の状況を伝えている。電話連絡時や来訪時に要望や意見を聞き、即答できない事柄は会議で話し合い対応できるように取り組み、家族には速やかに回答している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月実施しているユニット会議にて各スタッフの意見や提案について話し合う場としている。	月1回ユニット会議を実施し職員の意見や提案を聞く機会があり、また年2回、人事考課を兼ねた個人面談も実施している。管理者は声を聴きながら職員の気付く力をつけられるよう取り組み、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自スタッフが向上心を持って働くことが出来るよう、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社での社内研修も定期的実施されているが、関西エリア内においても4月～定期的に勉強会の開催を計画している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会合や研修には出来る限りホーム内の役職に関わらず、関係するものが優先的に参加するよう指示しており、ホームへ持ち帰り実践を目指している。		

愛の家グループホーム東大阪加納(太陽)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所当初は環境の変化が大きいことから、精神的支えを一番に考え、不安や要望を出来る限り聞き取るよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族様からの相談や要望を引き出せるよう、アセスメント等の時間を確保している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム内でできる限りのサービスの提供・支援を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に支えあえる関係・環境作りを目指し心掛けているものの、信頼関係の形成は常に取り組むべき事柄である。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様と家族様の関係は特に大切であると考え、関係を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や人との交流は、関係が途切れないよう家族様にも協力いただきながら支援している。	知合いのカラオケ店、喫茶店や買い物に行ったり、家族との外食、自宅に戻るなど家族の協力も得ながら馴染みの関係が途切れないように支援している。ホームにも、兄弟や親戚の来訪がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係は職員が上手く介入することで支えあえる雰囲気を心掛け、またトラブルが回避できるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その都度対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族様に情報をいただくことも多いが、本人様との日常の会話や仕草から観察・推測し、各利用者様の希望や意向を引き出せるよう心掛けている。	利用者の日々の会話や生活の様子から思いや希望など把握するよう努めている。また家族ともこれまでの暮らし方や好み等を聞き話し合い、利用者本位の生活となるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所以前の生活歴やサービスの利用については、アセスメントにて出来る限り情報を収集し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の利用者様の様子から情報を把握するだけでなく、申し送りやモニタリングから現状を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画担当者会議やカンファレンスの中で個別に検討し、家族様へも出来る限りの相談・提案し協力いただきながら作成している。	日々の生活からの職員の気付きを基にして、利用者や家族の意向も取り入れた介護計画を立てている。アセスメントが丁寧になされており、個別の人物像が把握され、個々に合った課題や目標が挙げられている。又、カンファレンスでは内容にそって詳細に検討、評価を行い、見直しの際に活かされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリングや介護記録にて日々の様子や変化、実施状況を記録し、見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々なニーズを聞き取り実施できるよう、ホーム内外で対応できる環境作りの構築に取り組んでいる。		

愛の家グループホーム東大阪加納(太陽)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在地域資源のを活かした暮らしが出来るよう見当を進めている最中。積極的な地域交流によって、生活に生きがいを持てるよう取り組みたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各利用者様が適切に医療を受けられるよう支援している。	入居前からのかかりつけ医を利用されている方が多く、定期的な受診は家族の協力を得ているが、無理な場合は職員が支援する体制になっている。1ヶ月に1回の医療報告をもらい連携を図っている。ホームには看護師も配置し日常の健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で得た情報や気付きは看護職へも適切に申し送りできるよう、連携記録を活用し適切な受診や看護が受けれるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は出来る限り家族様のサポートを行い、相談はもちろん情報の共有に努めている。受け入れが困難な状態でも、医療連携室との連携を計り受け入れ可能な病院を探し対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合については、入居相談や契約時に説明を行い、その後状況が変化するたびに事業所の出来ることを説明し、家族様に協力いただきながら出来る限り地域で支えられるよう取り組んでいる。	重度化や終末期の対応については、最終的に家族の意向を聞き、医師、職員で話合っって対応を決定している。医療処置の必要性が低く、ホームで出来ることを理解した上での対応であれば受け入れたいと考えている。マニュアルも整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルをスタッフは周知しており、カンファレンスや会議でも話し合いを持っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今後の避難訓練の実施の際に、地域住民の参加要請を検討している。また、火災については避難体制が徹底できているが自身・水害においては課題がある。	消防署の協力の下で避難訓練を行い、避難経路の確認などに力を入れている。今後スプリンクラー設置が予定されている。隣家に住む建物オーナーが自治会長ということもあり地域協力が期待できる。	地域協力の強化のために運営推進委員会で「災害対策」を議題に検討されてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各利用者様の人格を尊重し、誇りや プライバシーを損ねない言葉かけと環境作りを徹底している。	居室への入室時にはかならず声かけをしている。言葉かけについてはカンファレンス時に話し合ったり、日々職員間で確認し合い、問題があれば注意している。トイレ誘導に関しても周りに気遣いながら対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で自己決定の場面を出来るだけ作れるよう声かけすることを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合は優先せず、各利用者様の希望を尊重した生活の支援を行っている。(例えば・・・希望があれば突然外出に向いたり)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各利用者様の個性を理解して、支援ができています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは職員で行うことが多いが、出来る事は環境や条件を整えてお願いしている。	出来る事が少なくなってきたが、下膳など出来る事を一緒にしている。時には誕生会にケーキを手作りしたり、また食材の買物や外食、出前も利用する等工夫しながら日常的な食事の楽しみを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特に水分に関しては、飲み物を変える等して工夫して摂取していただけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕の口腔ケア支援はできている。昼食後のケアに関しては今後カンファレンスにて話し合いを持つ必要がある。		

愛の家グループホーム東大阪加納(太陽)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状態は常に変化しているが、観察や状態把握に努め、維持・向上できるよう常に試行錯誤しながら支援している。	排泄のチェック表を利用し排泄パターンを把握し個々に合わせてトイレ誘導を行っている。尿量に合わせてパットの種類を変えたり、ポータブルトイレを設置する事で失敗がなくなったりと個々の状況に応じ自立に向けての支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	往診医・看護師への相談・報告を繰り返しながら、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の都合で曜日・時間を決めず、個人の体調に合わせて最低週2～3回は入浴していただけるよう支援している。	基本的には午後1時過ぎから夕方まで週2回以上入浴できるように支援し、希望に応じて毎日でも入浴できるなど臨機応変に対応している。拒否の方も誘導の工夫により入浴できている。体調不良の方には清拭や更衣など状況に応じた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援の徹底と共に、症状の観察・報告に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者様に応じて支援できている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	支援できるよう心掛け、工夫している。	日常的に買物や散歩で外出している。ドライブや家族も参加する花見等で遠出も支援している。季節を感じられるように、敷地内の庭や畑に出て外気を浴びたり、戸外に出る機会を増やすように支援している。	

愛の家グループホーム東大阪加納(太陽)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各利用者様の希望や能力に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援できている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	取り組んでいるが、今後においても常に工夫・改善が必要な事柄であるし、出来る事まだまだ多くある。	明るく清潔感のあるゆったりとした造りで、リビングには明るい光が差し込む窓があり、事務スペースはガラス張りで開放感がある。1階リビングからは庭が続き季節が感じられる。廊下は歩行訓練ができる広さとなっている。ゆとりがある為、毎日来訪される家族や滞在時間が長い方がおられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各利用者さまに応じて何事にも無理強いせず工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に今まで使い慣れた馴染みのあるものを活かした居室作りを心掛けている。	洋服ダンスは備付ついで、他は自宅の延長となるよう家族と相談しながら使い慣れた家具や大切な家族の写真等や装飾品を持ち込まれている。フローリングに畳を敷いて、布団で休むこともでき、その方らしい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境作りに努め、その中で個々が自立を意識した生活を送れるよう工夫している。		